

22. チンゲンサイ

・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
NC+M1	ジーファイン水和剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類(なすを除く)
31	スターナ水和剤	散布	収穫7日前まで	2回以内	
36	ネビジン粉剤	全面土壌混和	は種又は定植前	1回	非結球あぶらな科葉菜類(なばな類を除く)
29	フロンサイド粉剤	全面土壌混和	は種又は定植前	1回	非結球あぶらな科葉菜類(ケル、こまつな、みずな、のざわな、なばな類を除く)
11+4	ユニフォーム粒剤	全面土壌混和	定植前	1回	

・殺菌剤 (参考農薬)

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
NC+M1	ジーファイン水和剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類(なすを除く)

・殺虫剤

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
11	エスマルクDF	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	野菜類
13	コテツフロアブル	散布	収穫7日前まで	1回	
11	トアロー水和剤CT	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
11	バシレックス水和剤	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	野菜類
4	モスピラン粒剤	株元散布	定植前日～定植当日	1回	

・殺虫剤 (参考農薬)

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アグロスリン乳剤	散布	収穫前日まで	2回以内	
6+15	アフームエクセラ顆粒水和剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	
6	アフーム乳剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	
3	スカウト乳剤	散布	収穫7日前まで	2回以内	
11	ゼンターリ顆粒水和剤	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	野菜類(はくさい、キャベツを除く)
11	チューンアップ顆粒水和剤	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)
15	ノーモルト乳剤	散布	収穫14日前まで	2回以内	
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫7日前まで	1回	

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。
- 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
- 注4) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
白さび病 (F)	定植前	1. ユニフォーム粒剤を 10a 当り 9 kg 全面散布し、均一に土壌混和する。	1. 薬害を避けるため、10a 当りの使用量を守る。
	生育期間	1. ジーファイン水和剤 1,000 倍液を散布する。	1. 収穫葉展開以降の散布は薬害を生じるので使用しない。
根こぶ病 (F)	は種又は定植前	1. 発病根は、集めて土中深く埋める。 2. 土壌酸度を pH7 以上になるように、石灰を施用する。 3. ネビジン粉剤、又はフロンサイド粉剤を 10a 当り 30kg 全面散布し、均一に土壌混和する。	1. 排水の悪いほ場で発生しやすい。 2. いずれの薬剤も面積に応じた薬剤量を厳守する。 3. フロンサイドは、無風条件で散布する。
軟腐病 (B)	生育期間	1. スターナ水和剤 1,000 倍液を散布する。 [参考農薬] 1. ジーファイン水和剤 1,000 倍液を散布する。	1. ジーファインは白さび病の注意事項を参照する。
アブラムシ類	定植当日	1. モスピラン粒剤を 1 株当り 0.5g 株元散布する。	1. セル成型育苗で使用する場合は定植当日に使用する。 2. モスピランは、蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
	生育期間	[参考農薬] 1. スカウト乳剤 1,500 倍液、アグロスリン乳剤 2,000 倍液、モスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍液のいずれかを散布する。	1. スカウト、アグロスリンは蚕毒及び魚毒に、モスピランは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
コナガ	定植当日	1. モスピラン粒剤を 1 株当り 0.5g 株元散布する。	1. セル成型育苗で使用する場合は定植当日に使用し、育苗期の使用を避ける。 2. モスピランは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
	生育期間	1. 育苗時は透明寒冷紗、定植後は白寒冷紗でトンネルがけをする。 2. エスマルク DF、コテツフロアブル、トアロー水和剤 CT、バシレックス水和剤の 2,000 倍液のいずれかを散布する。 [参考農薬] 1. アファームエクセラ顆粒水和剤、ゼンターリ顆粒水和剤の 1,000 倍液、アファーム乳剤 1,000~2,000 倍液、チューンアップ顆粒水和剤、ノーモルト乳剤の 2,000 倍液のいずれかを散布する。	1. 寒冷紗被覆はトンネルがけとし、ベタがけにしない。 2. 寒冷紗被覆により、徒長しやすい品種があるので注意する。 3. BT 生菌剤(エスマルク、バシレックス、ゼンターリ、チューンアップ)、アファーム、アファームエクセラ、ノーモルトは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
アオムシ	生育期間	[参考農薬] 1. アファーム乳剤 1,000~2,000 倍液、チューンアップ顆粒水和剤 2,000 倍液のいずれかを散布する。	1. アファーム、チューンアップは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。